

# 白地着て行きどころなしある如し

藤田湘子

最近の男たちはめつきり和装をしなくなつた。いや、しなくなつたのではなく、就職も厳しく余裕が無い若者が増え、したくでもできなくなつたのだらう。

掲句は、昭和二十八年作。戦後、国鉄（現JR）に勤務していた湘子も二十八歳。夏の手当が出た頃だろうか。思い切つてこれまで欲しかった白紺の浴衣を新調したといった雰囲気。しかし、しかしである。だからといって取り立てて着て行く当ても無く、すぐさま逢つて見せられる女性が居たわけでも無かつたようだ。

白地に紺模様の着物は実に爽やか。しかし、ジーンパンのように座れず、下着も透けやすく、飲食や汗染みにも細心の注意が必要なのだと、後から知ることになる。